

編集後記

■編集委員

委員長

藤田 郁代

副委員長

立石 雅子

阿部 晶子

今井 智子

石坂 郁代

内田 信也

宇野 彰

勝木 準

倉内 紀子

倉智 雅子

佐藤 睦子

椎名 英貴

城間 将江

鈴木 恵子

中村 光一

長谷川 賢一

春原 則子

深浦 順一

藤原 百合

水田 秀子

矢守 麻奈

■英文要旨の校閲

Gordon BATESON

勝木 準

寒さが厳しい冬の季節となったが、窓を閉めきって生活することが多い北海道では新型コロナウイルスの患者数が急増している。一般に、失語症などの言語障害がある人は外出する機会が少なく、このような状況下で社会参加の機会の減少だけでなく、機能や活動の低下が生じていないか懸念されるところである。

一般企業や学校はITを活用したオンライン会議やオンライン授業を積極的に取り入れ、コロナ下での状況に応じた活動のあり方を模索している。医療においてもオンライン診療や遠隔診療が注目を浴びているが、言語聴覚療法はどうだろうか。米国では、従来から遠隔地のクライアントを対象としたテレコミュニケーション訓練などが盛んであり、ITを活用したオンライン治療に関する研究報告がかなりみられる。しかし本邦では、このような研究報告は少ない。

アフターコロナの時代が来ても、現在のオンライン化が元に戻るとは考えにくく、各分野でオンラインの活用は続くであろう。対人コミュニケーションにおいてはバーバル機能だけでなくノンバーバル機能も利用されるため、直接対面による言語聴覚療法が最も効果的と考えられるが、オンライン治療は言語聴覚療法の幅を広げる可能性がある。たとえば、遠隔地や通院・通所できないクライアントの評価・治療、多彩なコミュニケーションの機会の確保、参加の拡充やピア・グループ活動の支援などに効力を発揮すると考えられる。このような試みの論文が出てくることを期待したい。

今号では、レポート「現場最前線」において、新型コロナウイルス感染症の治療過程で脳出血を発病した方の摂食嚥下障害に対する取り組みが報告されているので、ぜひ一読されたい。このほかに、失語症および言語聴覚士養成教育に関する原著論文が各2編、短報1編、調査報告1編が掲載されている。いずれも日常の臨床や教育における課題を掘り下げて検討した読みごたえのある論文である。

(藤田郁代)

言語聴覚研究 (第17巻 第4号) 2020年12月15日発行(年4回(3, 6, 9, 12月)15日発行)

Japanese Journal of Speech, Language, and Hearing Research

1部定価: 本体2,000円+税

2020年年間購読料: 本体7,500円+税(4冊, 送料発売会社負担)

編集・発行: 一般社団法人日本言語聴覚士協会(会長: 深浦順一)

〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 9階

(☎03-6280-7628 FAX 03-6280-7629) <http://www.jaslht.or.jp/>

Published by Japanese Association of Speech-Language-Hearing Therapists (JAS), Acropolis Tokyo 9F, 6-29 Shinogawamachi, Shinjuku-ku, Tokyo, 162-0814, Japan

©2020, Printed in Japan

制作・発売: (株)医学書院(代表: 金原 俊) <http://www.igaku-shoin.co.jp/>

☎113-8719 東京都文京区本郷 1-28-23(振替口座 00170-9-96693 番)

販売部直通 ☎03-3817-5659・5660(FAX 03-3815-7804)

印刷所 (株)アイワード ☎011-241-9341(FAX 011-207-6178)

広告申込所 (株)文京メディカル ☎03-3817-8036(FAX 03-3817-8044)